知事コラム

今、ダムが注目。

今、ダムが注目されています。ある時期とても嫌われたこともありましたが、昨年9月の鬼怒川の決壊、今年6月の九州の大雨被害を見ても、治水面におけるダムの重要性はますます大きくなっています。

また、6月に入り首都圏の水がめとなるダムの貯水量がピンチで、利根川水系では10%の取水制限が始まりました。実は平成になってからも、2年、6年、8年、9年、13年、24年、25年と10～30%の取水制限がありました。一部地域で断水や水の出が悪くなった年もありましたが、ぎりぎりで雨が降ってくれたので大きな混乱には至りませんでした。このように利水の面からもダムはとても重要な役割を果たしています。

地球は気候変動期にあるようですから、大雨、渇水ともに油断禁物です。

そして、最近では「ダムツアー」など、観光面でも全国のダムが注目されています。「夏に行きたい観光ダムランキングベスト10」を紹介した日刊紙もあります。雄大で涼しいところにあるからでしょう。埼玉県でも合角(かっかく)ダムは「ごうかく」祈願で受験生に人気ですし、浦山ダムは重力式コンクリートダムでは国内2位の156メートルという高さで、滝沢ダムはダムとループ橋が美しい奥秩父の景観と調和して人気です。また、ダムを訪問した人に配布される「ダムカード」も人気を集めています。

さらに、知られていないダムの効用がもう一つあります。それは山林火災の消火の最後の決め手になっていることです。山林火災では、消防署や消防団、そして県の防災ヘリでも消火できないとき、自衛隊に出動を要請します。双発プロペラの大型ヘリでベビーバスのような形をした超特大のバケツをダム湖に降ろし、水をすくって、火災現場で一気に落とします。直近では平成26年に延べ9機、平成27年に延べ12機が出動して県内の山林火災を消火してもらいました。



埼玉県知事 上田清司